

佛乗寺檀信徒の皆さまへ

日蓮正宗 佛乗寺 住 職 笠原建道
講 頭 廣田正至

《宗祖日蓮大聖人様の御誕生月にちなんで》

日蓮大聖人様は暗闇を照らす太陽

まもなく大聖人様のお誕生日の十六日を迎えます。五年後の平成三三年には御聖誕八〇〇年の佳節です。私たちは、御法主日如上人の御指南のままにその佳節をお祝いすべく日々精進を重ねております。今月は御聖誕の月に因み、御出現の意義を拝したいと思ひます。

『寂日房御書』には次のように述べられます。

日蓮となのる事自解仏乗とも云ひつべし。かやうに申せば利口げに聞こえたれども、道理のさすところさもやあらん。經に云はく「日月の光明の能く諸の幽冥を除くが如く、斯の人世間に行じて能く衆生の闇を滅す」と此の文の心よくよく案じさせ給へ。「斯人行世間」の五つの文字は、上行菩薩末法の始めの五百年に出現して、南無妙法蓮華經の五字の光明をさしだして、無明煩惱の闇をてらすべしと云ふ事なり。日蓮等此の上行菩薩の御使ひとして、日本国の一切衆生に法華經をうけたもてと勧めしは是なり。此の山にしてもをこたらず候なり。(御書・一三九三頁)

御文の意は、おおよそ次のようになります。

日蓮と名のことは、自ら仏の悟りを開いたからです。このように申せば自慢しているように聞こえるかも知れませんが、道理の上からすれば、自慢ではないことがわかるでしょう。また、法華經の『神力品』には、「日や月の光が暗闇を照らすように、人間界に出現した『この人』が人々の心の闇を消滅します」(趣意・法華經・五一六頁)と説かれております。この經文の意味をよくよく考えるべきです。「この人が人界に生を受ける」と説かれる意味は、仏様のお使いとして、上行菩薩様が末法の初めの五百年に出られて、南無妙法蓮華經の五字を光明として、人々の煩惱の根本である「元品の無明」に光を当てて取り除く、ということです。日蓮が上行菩薩様の御使として、日本国の一切の人々に、南無妙法蓮華經と唱え、法華經を信仰することを勧めるのは、經文に説かれている通りではありませんか。ですから、この山中にあっても、怠ることなく折伏をするのです。と。

このように、大聖人様は、末法に出現される仏様は「人」である、と明確に仰せです。

末法の仏様は、阿弥陀仏や大日如来や薬師如来のように最初から仏様として存在するものではありません。人間として生まれ、悩みや苦しみの中にあつて、經文に説かれるように、命懸けで仏道修行に励むことで、仏様としてのお姿を順々と明らかにされるのです。この筋道を自身の身の上に顯されたのは、日蓮大聖人様以外にはおられません。ですから、私たちは日蓮大聖人様を末法の仏様と拝するのです。

今月の宗祖日蓮大聖人様御報恩御講で拝する『四条金吾女房御書』には、闇を切り

開き衆生の迷いを取り除く「日月」と、汚泥の中にあっても清らかな花を咲かせる蓮華から一文字ずつを取られて「日蓮」と名のられたことが示されております。

お経文に「日月の光明」と説かれ、大聖人様ご自身が「日蓮」と名のられたこと、そして、その弟子檀那の一分にあることを嬉しく思うとともに、恥じないように、と誠めるものです。

寒さの中にも春の訪れを感じることができる季節になりました。大聖人様の御誕生月を有意義に過ごし、花の季節を迎えようではありませんか。檀信徒御一同のご健勝とご精進を祈ります。